「平和と人権」市民ネットワーク情報 №23-6（通算 98 号）
事務局発行（℡ 0557-45-1182） http://peaceito.moo.jp 2023.6/7

「地区９条の会」の活動をさらに広げよう

◆「川奈・吉田９条の会」は５月 29 日に川奈聖書教会で四回目の集まりを持ちました。この日は中村哲さんの生涯を記録した DVD「荒野に希望の灯をともす」を 90 分にわたって視聴しました。教会員の方も４名ほど加わり、フロアに並べられた 15 脚ほどの椅子が埋まりました。凶弾に倒れて４年、中村さんの 73 年の生涯は、日本という荒野に生きる私たちにこそ生きることの希望を与えます。以下、視聴者の感想を紹介します。会場設営から運営万般に、山口牧師に多大な配慮をいただきました。感謝です。

山口さん撮影

① 何と意志の強い人なのでしょう。何よりも命が大切。それを貫かれた生涯。決して忘れません。
② 目の前の困難に真正面から全力で取り組む姿に、中村医師の凄さに驚きしかありません。
③ 胸がいっぱいです。忍耐の限りを尽くされ、逃げずに前に前に歩まれた人生に多くのことを学びます。一人の方のお働き、信念が貫かれたことを思いました。
④ 感動し、人の生き方を考えさせられる素晴らしい映画でした。もっと多くの人に見てもらいたいですね。
⑤ 平和は理性ではなく、窮地にある者とともに人の命の尊さ、そして神の与えられた自然の生きていくことの大切さを中村さんの活動をと通して改めて知ることが出来ました。
⑥ 心と身体をもって働かれた御業は尊く、素晴らしいです。この地に種を落とす実として、改めて日々の行いを考えてゆきたいと思いました。貴重な機会をありがとうございました。
⑦ 中村先生の生き方を学び実践するのは到底無理ですが、発した言葉には素晴らしいものがあり、その言葉を大切にして頑張っていきたいと思います。
⑧ 中村哲さん、何と素晴らしい方、一言では言えませんね。自分たちは何と恵まれている。もっと感謝して行かなくてはと思う。
⑨ 人の命も自分の命も大切にする。国民がそう思えば戦争はなくなる、それを学びました。
⑩ 平和は争いのない状態ではない。平和は共同する活動を通して生まれる人と人の信頼と尊重のなかにある。そこで育まれる人間の命と自然の恵みに感謝する心が平和の礎となる。中村哲さんの言葉を通して学びました。

※ 次回は７月中下旬を予定しています。内容は未定です。
どなたも参加できます。

◆「伊豆高原９条の会」は５月 24 日に世話人会兼学習会を「アロマローズ」で行いました。前半の学習会では三好が「安保三文書」の内容を報告しました。途中で意見交換が入ったため、報告が尻切れトンボに終わったのが残念でした。以下は、報告のまとめとして用意した「安保三文書」後の展開を予想した私論です。参考資料として掲載します。

【私論】　安保三文書の後に来るもの

2023.1.27 作成

① 陸海空の統合司令部を設ける。(国家防衛戦略　p23)

☞　現在の自衛隊トップ=統合幕僚部議長はもっぱら政治サイドの折衝、補佐役。
軍事面の指揮・統制のトップに新設の統合司令官があたる。
これによって、政治による軍の統制が間接的になる懸念がある。

☞　統合司令官を設けることによって、**米軍と自衛隊との統一司令部の設置**の動きが容易になる。
むしろ、**その布石としての自衛隊の統合司令官の設置ではないか。**

② 自衛隊と米軍の基地の共同使用・共同運用が進む。南西諸島に米軍基地は存在しないので、**ここに作られている自衛隊の基地に米軍が常駐することになるのではないか。**

③ 敵基地攻撃可能な長射程ミサイル配備によって、**将来的な米軍の中距離ミサイルの南西諸島配備が進む**のではないか。**敵基地攻撃用のミサイルの保有は、米軍のミサイル配備―自衛隊基地も対象となる―の前哨とみられる。**

④ 南西諸島域を中心に民間空港・港湾の軍事利用が進む。

⑤ **官民一体となった軍事化、軍事国家化が進展する。**

・経済安全保障
・防衛産業の育成⇔防衛装備品の輸出促進
・食料・エネルギー安全保障
・学術の軍事研究　　(以上)

5/28、「9 条の会」、全国交流集会 開く (5/29 赤旗)

「九条の会」運動 今こそ大きく

全国交流集

平和主義捨てる

「九条の会」は28日、東京都内で「大軍拡反対、憲法の会」全国交流集会―大江健三郎さんの志を受けつい32都道府県、29の分野別の九条の会から292人が参に基づき「敵基地攻撃能力」の保有、5年間で43兆円状況のなかで憲法9条を守ろうといきいきと活動するしました。

3月3日に死去した呼び（作家）の思いを受け継ぎかけ人の大江健三郎さん　運動を進めていく決意が表

大江健三郎さんの志を受けつぎ、大軍拡に反対し憲法改悪を止めようと開かれた九条の会全国交流集会＝28日、東京都千代田区

「九条の会」がある限り

弁護士
伊藤　真さん

安保3文書の「国家安全保障戦略」で、「我が国の安全保障の基本原則」という項目があります。その中に憲法という言葉が一個も出てきません。

わが国の安全保障の基本原則に憲法が出てこない。そんな状況に、憲法9条は死んでしまったのではないかという声も聞かれたりします。でも9条の会がある限り憲法9条は絶対に死にません。

9条は、戦争をしない、平和な国のようなどと同時に、私たちの自由やひとりひとりの権利を支えているものです。市民の力で平和な日本へ押し戻していきましょう。

講 演 会 の 案 内

・講師…柳沢協二氏「戦争は絶対避けなければならない」

・日時…７月２日(日)13：30～(13:00 開場)

・会場…韮山時代劇場大ホール(伊豆の国市四日町 772 ☎055-949-8600)

・協力券…５００円　チケットはアクション事務局員　梶野まで（☎37-9134 市職労）

※詳細は同封(添付)の案内チラシをご覧ください。

この人に聞く

安部川てつ子さん

安部川さんは 2000 年に横須賀市から大室高原に移住されました。移住前から反原発運動にかかわり、仲間の人たちと株主総会の場で東電の事故隠しを追及してきました。2011 年の福島の原発事故に大きな衝撃を受け、伊豆の地で福島の子どもたちの保養ステイを始められました。賛同者が集まり、募金が寄せられ、一人の志が大きな実を結びました。病を得て現在自宅療養されている安部川さんを訪ね、反原発運動のきっかけや保養ステイの活動について伺いました。

〈原発とのかかわり〉

安部川

チェルノブイリがあってからですから、37 年です。その年の秋から学習会をやって。それまでは全然かかわっていない。私は、防衛大学校に勤めていたの。家の前からバスで行けて楽だったから。

三好

横須賀にあるんですか。

安部川

横須賀です。何も考えてなかった。社会とか政治に問題意識がなかった。近いし、公務員だし、特別公務員。入って自衛官とか見ていると、紙切れ一枚で動かされてしまうじゃない。それが嫌で防大生とも付き合わなかった。

三好

防大は全寮制で上下関係もきつくて中でいじめもあった。テレビのドキュメントで報道されたり裁判にもなったけど、当然そういうことはわからなかった？

安部川

全然。ただ一つの就職先として選んだ。会計の事務をやっていた。チェルノヴィリの事故が起きたとき私たちは消費生活活動をやっていて、取っていたお茶が 8,000 キロ離れているのに汚染されていた。三重県の渡会ですけど。国の基準をうわまわっていた。ビックリした。全然関係ないと思っていたのに。それで、原発というものを認識して、一生懸命勉強した。それがき

っかけ。

三好

私、そのとき浜岡に住んでいたんです。池新田高校に勤めているとき事故が起きて、中電の人が回ってきた。浜岡は大丈夫。チェルノブイリは黒鉛を冷却材につかっているけど、ここのは水だからあんな事故は起きない、大丈夫だ、と一軒一軒回って来た。

安部川

一軒、一軒!! (笑い) 東電もそうですよ。日本の原発は大丈夫だ、と。でも「そうじゃないんだ」となって、原発についてグループで勉強した。私が東京に通うのは原発運動だけで行きました。国会とか議員会館とか 1988 年には、日比谷公園に 2 万人集まって、反原発のデモをしました。(資料を見ながら)1989 年の 1 月に第二原発三号機の再循環ポンプの中にかけらが入って、あわやという事故があった。それでまた反対運動が盛り上がって、主婦たちが集まって運動をやった。そして、東電の株主総会に出て、ちゃんと株主提案しないといけない、となった。それが 1991 年。東電の株が 100 株単位で 60 万円くらいしていたの。みんなで少しずつ出して買ったの。総会に出て発言するには 300 株ないといけない、というので。東電の株が一番高い時だったけど、皆で出し合って 300 株集まりました。今でも株主運動は続いている。

三好

どんなことを主張するんですか。

安部川

事故があることとか、役員を減らせとか、経営上のいろんなことを提案した。JOC の大きな事故があったでしょ。けっこう事故があるんですよ。小さな事故はしょっちゅうあって、恐ろしいです。となって、それだから運動が続いてきたのかもしれない。国会に詰めたり、東電に詰めたり、核燃料の輸送に反対して、海老名サービスエリアに横断幕を掲げて反対行動をしたこともあります。ずぅーと運動をやっていて、福島の頃は、大きな事故は起きないだろうな、と思っている矢先でした。

三好

株を持ち合った人たちとずぅーと運動を続けてきたのですか。

安部川

やっていました。高木仁三郎さんが出前の講師養成講座を開いていて、あの先生が市民に講義をしてくれたの、ずぅーと。物理のことはわからないけど、事故が怖いということだけはわかった。廃棄物の問題が見えてきました。2000 年かな、亡くなるまでそういう場を提供してくれました。

〈2011 年 3 月福島の事故〉

三好

福島の事故の時は、伊東に来られていましたか。

安部川

来ていました。2000 年の 3 月に来ました。

三好

それではそんなに度々東京にも行けない？

安部川

行けないし、大きな事故は起きないだろう、と思っていた。事故が起きたときは震えが止まりなかった。知っている人は誰もいないし、そういうことを話せる人もいないし。

三好

こちらに来て何か組織に入って活動をしたりとかは?

安部川

株主総会に出るぐらいで、後は普通に生活していました。環境問題に関心があって、森のボランティアに入って自然保護のことはしていましたが、原発事故のことは考えていなかったです。

(つづく)